

10月30日（月）その89 記憶に残るすさまじい台風

土曜日は沖縄本島に暴風警報が発令されて、バスも全面的にストップした。暴風警報が沖縄本島に発令されるのは、今年初めてだと思うが、どうだろうか？週末の各種行事が中止や延期になったようである。「第41回沖縄の産業まつり」も中止になった。昨年度24万人が来場しているだけに、準備してきた業者の皆さん方にとっては大変な痛手だろう。

ちょっと前の台風18号は、九州、四国、本州、北海道と、日本の大きな4つの島全てに上陸した初の台風でした。気象庁が「上陸」という言葉を使うのは、この4つの島だけである。沖縄島などの小さな島は「上陸」とは言わず「通過」だそうだ。……「いんちき！」（笑）

平成以降、記憶に残る台風を紹介しよう。まず平成13年・2001年9月の台風16号。この台風は史上最長の11日間沖縄付近を迷走した。16号は八重山近海で発生し八重山を暴風に巻き込み、北東に進んで沖縄本島南部を通過、太平洋上に出た後で迷走を始めた。洋上でUターンすると進路を西に変え、今度は沖縄本島中部を横断して久米島方面に抜けたが、さらに迷走した。久米島の北西海上で再びUターン旋回し、その後久米島や慶良間などの沖縄西方海上で長期間滞在した。それから宮古島に戻るよう南西の方向に進み、なんと台湾に上陸した後、中国華南方面にも上陸し消滅した。

前代未聞の迷走の理由は、「強い高気圧の張り出し、流れのない大気、高い海水温度」の三つの条件が重なったからであるらしい。

この台風は本島西側の離島に大きな被害をもたらした。渡嘉敷村阿波連や、座間味村慶留間の村道が決壊し、復旧に長期間かかった。また渡名喜小中では、体育館の屋根が丸ごと吹っ飛んだ。

平成15年・2003年9月に宮古島を襲った台風14号は、瞬間最大風速74.1mを記録した。日本の台風の観測史上7位の瞬間最大風速であった。（なお1、4位も宮古島を襲った台風）各家庭のアルミサッシの厚い窓ガラスが大量に割れた。多くの電柱が横倒しになり、風力発電の大型プロペラ型風車でさえ、何本か倒壊した。すさまじい風が吹いたのである。我が家もアルミサッシの窓ガラスだけで、雨戸がないので不安になった。雨戸をつけようかと考えて10年以上になるが、のど元過ぎれば熱さを……。 （笑）

また平成3年・1991年の台風19号は、「りんご台風」と呼ばれ、青森県などの収穫前のりんごが大量に落下したのが記憶に残っている。

昭和の時代には、もっと大きな被害を出した台風があった。5000人が死んだ伊勢湾台風、3000人が死んだ室戸台風、そして瞬間最大風速が85.3mの第2宮古島台風などである。後7行では解説できない、自分で調べてみよう。

台風が来ると、子ども達と同じように「ヤッター、休みだあ！」と喜ぶ教員がいた。私は校長時代、そのことを全職員に強く指導した。身銭をあまり切らずに済む公務員と違って、農業や漁業をやっている方々は事前に多くの投資をしているのだ。台風で全てがパーになったり、収入が0どころかマイナスになったりすることもある。生徒の保護者にはそのような方々もいらっしゃる。もし授業途中で暴風警報が出た場合は、まず子ども達の安全な下校に全神経を集中し、暴風時の過ごし方などを指導すべきである。「ヤッター、休みだあ！」などと、お子様レベルの発言は絶対にしてはいけない。

10月31日（火）その90 「青い熊」と「おい、悪魔」

台風の日曜日、ネットサーフィン（今でもそう言うのかな？）していたら、たまたまコロッケのものまねを特集しているユーチューブにヒットした。一つ見ていたら楽しくて一人で笑ってしまい、一時間くらい次々に見てしまった。そう言えば、私はコロッケの CD を一枚だけ持っている。「いのちの理由」というさだまさし作詞・作曲のものすごくまじめな歌だ。同名の校長講話を作り、BGM でこの歌を使うために CD を買った。

コロッケのものまねは、単なるものまねの領域を越えている。レパートリーの広さやネタの芸風など、どんどん進化していて、芸術の域に達しているようにも感じる。ある人物の特徴を捉えて、オーバーに表現することを「デフォルメ」といい、マンガの似顔絵なども、その技法を使っている。コロッケは自分が納得したデフォルメを徹底して追求するようだ。ものすごく研究熱心で、「教材研究」の時間は半端じゃないと思う。

ものまねがうまい人は、実は歌もうまいのだ。美川憲一や五木ひろし、北島三郎やちあきなおみなど、ものすごく似ているし、笑える。ただの歌まね・顔まねだけでは 35 年も人気を保つことはできない。常に新しいことを考え、進化しつづけているのである。

コロッケの座右の銘は、母から教えられ楽屋にいつも張ってある「青い熊」であるらしい。わざと漢字で変換してみたが、本当は全てひらがなで書く「あおいくま」である。これは人間の弱さを克服する教訓なのだそうだ。

「あおいくま」は、「あせるな」、「おこるな」、「いばるな」、「くさるな」、「まけるな」の頭文字をとったもので、熊本県出身のお母さんは、「人生は、この五つの言葉たい」と、いつも言っていたそうである。

コロッケの家は母子家庭で、物心ついたときから、父親はいなかったそうだ。母と姉の 3 人家族だが、家はとても貧しかったようである。その日の食事にも困ることがあったらしいが、コロッケは「貧乏だ」、「惨めだ」と考えたことはなかったそうだ。お母さんは、あいさつや片付け、食事のマナーなど厳しく、お風呂や清潔なものを着ることに気を配り、いじめとか何かあると 2 人の子どものために、体を張って頑張ってくれたそうだ。

コロッケは、右耳がほとんど聞こえないことを公表している。子どもの頃、真珠腫性中耳炎になっていたが、母の苦労を気遣い、言えずに、痛みを我慢していたから手遅れになったのだそうだ。右耳はほとんど聞こえないらしい。彼は母から教わった「あおいくま」を心の支えにして、そのハンディーをも乗り越えてきたのである。

「あおいくま」は、もともと禅寺での教えであるらしい。禅寺では、「おい、悪魔」（おい、あくま）という語呂合わせで教えており、煩惱を断ちきり感情をコントロールすることを説いているそうだ。

[お] 怒れば、周囲が萎縮し孤独になる。

[い] 威張れば、周囲から反発が生じ、器量が小さくなる。

[あ] 焦れば、心に余裕がなくなりミスが生じやすくなる。

[く] 腐れば、前向きでなくなる。

[ま] 負ければ、自信喪失になる。

「あおいくま」や「おい、あくま」は、「自分に負けて心の弱い人間になるな」「自分の欠点や弱点にも打ち勝って行け」と、教えているのです。

11月2日（木）その91 歌を物語として演じることのできる歌手

今週の月曜日（10.29）は、新聞がお休みの日でした。そんな時、前日の日曜日の新聞の最終面（裏面）が全面広告欄になるのを知っていますね。琉球新報は、「日本の愛唱歌 160 選」、そして沖縄タイムスが「ちあきなおみの世界」と、どちらも 10 枚組の CD の広告でした。私は「自分へのご褒美」として 3 万円を出して、買うことにしました。どちらを買ったと思いますか？

ちあきなおみは、デビューする前はドサ回りなどして大変苦労したようであるが、昭和 44 年・1969 年に「雨に濡れた慕情」でデビューすると、たちまちヒット歌手の仲間入りをした。「四つのお願い」や「X+Y=LOVE」で大ブレイクし、お色気アイドル路線で活躍した。コミカルな演技も上手く、ドリフターズの「8 時だよ、全員集合」に長い間レギュラー出演していた。

1972 年に発売された「喝采」は、レコード大賞を受賞した。ちあきなおみにとって大きな転機になり、その後はじっくりと歌い込む歌を歌うようになった。ポップス、演歌、シャンソン、ジャズと、幅広くどんな歌でも歌いこなす類い希な歌唱力のある歌手である。

「歌唱力」とは、音域や声量、声質、リズム感などの歌のうまさを言うと思いますが、聞き手を感動させる表現力、メッセージを伝える説得力なども加わるような気がします。「歌唱力のある人は？」と聞けば、各人の好み（容姿や個性）も加わって、十人十色であろう。

ちあきなおみの創り出す歌は、圧倒的な歌のうまさと表現力がある。彼女の歌を聴いているとまるで演劇を見ているような気分になる。歌を物語として演じることのできる数少ない歌手の一人だと思う。

ちあきなおみは、1978 年に郷鉄治（ごうえいじ）という俳優と結婚した。郷は、俳優「宍戸錠」の弟である。しかし十数年後の 1992 年 11 月、その最愛の夫が肺がんのため亡くなった。夫がダビに付されるとき、ちあきは棺にしがみついて「私も一緒に焼いて！」と号泣したようである。彼女はこれを機に一切の芸能活動を停止して、歌の世界から消えてしまった。彼女の歌う「冬隣」（ふゆどなり）の歌詞のようだ。

多くのファンや関係者から熱い復活の声があがっているにもかかわらず、彼女が歌の世界に戻ってくることはなかった。しかし芸能活動休業後、毎年のようにベスト盤などの CD がリリースされ、6 枚組、10 枚組の CD が異例の大ヒットを記録した。この人気に NHK も 2005 年に BS で 90 分の特集番組『歌伝説・ちあきなおみの世界』を放送した。この番組は大反響を呼び、BS や総合で計 6 回放送されたそう。また 2013 年には、NHK 総合『SONGS』で、異例のちあきなおみの特番が放送された。

さて、予告したように本日は 30 分時間をもらった。「芸術の秋」だから、これから CD で、「矢切の渡し」、「かもめの街」、「赤とんぼ」、「冬隣」を聞いて欲しい。まるで演劇を見ているように歌を物語として演じることのできる圧倒的な歌唱力を感じて欲しい。「矢切の渡し」で、みごとに男と女を歌い分け、不安と喜び、戸惑いと決意が交錯するやりとり、まるで短編時代劇ドラマを観ているような気になる。「かもめの街」の……おっと、後一行しかない。（笑）所長選定の秋の芸術コンサート、始まり、始まり ♪♪～。